

第6号議案

2019～2028年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン
(年間計画・長期計画・実需給断面) について

(案)

業務規程第128条第2項、第3項および第129条第2項、第3項に基づき、マージン検討会の検討を踏まえ、2019～2028年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージンを別紙1(年間計画)及び別紙2(長期計画)のとおり算出し、実需給断面において、各連系線に確保するマージン設定の考え方及び確保すべき理由(別紙3)と併せて、別紙4により本機関ウェブサイトにて公表する。

公表日：2019年3月1日

以上

【添付資料】

- 別紙1：2019・2020年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画)
- 別紙2：2021～2028年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(長期計画)
- 別紙3：実需給断面におけるマージン設定の考え方及び確保理由について
- 別紙4：ウェブサイト公表文

2019・2020年度の予備力・調整力 及び潮流抑制のためのマージン (年間計画)

2019年3月1日

〈説明〉 年間断面におけるマージンの値

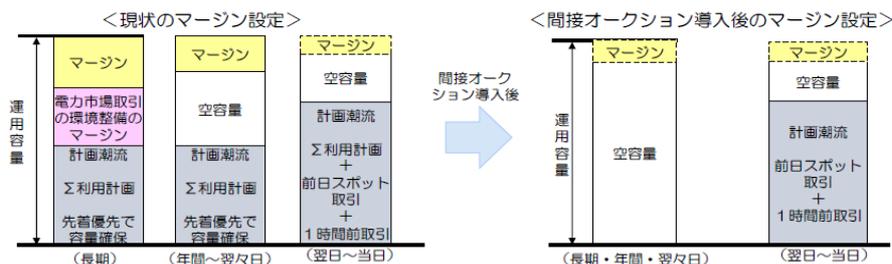
2

- ◆ 実需給断面におけるマージンが必要な場合を除き、原則としてマージンの値をゼロとする。
- ◆ 実需給断面において、マージンを設定する蓋然性があるものの、計画段階では値を確定することが困難な連系線については、実需給断面において設定する蓋然性のある値の範囲で設定する。なお、系統情報サービス上は蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

主な業務規程・送配電等業務指針変更点：マージンの設定断面について（変更）

17

- 現行ルールでは、「先着優先」で長期断面から利用計画により容量登録されるため、長期～実需給断面においてマージンを設定している。
- 連系線利用ルールが「間接オークション」に変更され前日スポット取引以降に容量登録されるため、**翌々日断面において実需給断面を考慮したマージンが設定されていけばよい。**
- 他方、供給計画を基にした需給バランス評価など予見性の観点から、長期・年間断面においてもマージンを設定しておく必要がある。
- 上記より、マージン設定の断面は「**長期・年間・翌々日**」とし、現行ルールで実施していた**マージン減少は不要なため削除**する。【規程第128条、第129条】（変更）



※ 年間・月間・翌々日の断面で実需給断面に向けマージンを減少
※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

業務規程・送配電等業務指針(変更)の検討について
出典: 広域機関HP 策定・変更に関するお知らせ 2017年度

1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）平日

		(単位：MW)												夜間・連系線有線時	
連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート5,6参照													
	東北⇒北海道	シート5,6参照													
東北東京間 連系線	東北⇒東京	12~392※1	12~392※1	12~392※1	12~342※1	22~352※1	22~352※1	22~472※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	10/31は22~402	
	東京⇒東北	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22		
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600		
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600		
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0~590※2	0~500※2	0~500※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	4/11,12,15~ 19,22~26,7/1~ 5,8~12,16~18は 0~500, 5/19,6/22,23は0。 夜間は0	
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~700※3	0~700※3	0~700※3	4/8~12,15~19, 22~26,5/7~10, 13~17,20~24,27, 10/30,31,2/18,19, 3/18,19は0, 12/26,27は0~ 700	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

(注) ・ 想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・ 範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1: 北海道風力実証分12MW (4~7月), 22MW (8~3月) に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~380MW (4~6月, 11~3月), 0~330MW (7~9月), 0~450MW (10月) を加えたもの。
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW (4,7~3月), 0~500MW (5,6月)
 ※3: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW (4~12月), 0~700MW (1月~3月)

1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）休日

		(単位：MW)												夜間・連系線有線時	
連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート5,6参照													
	東北⇒北海道	シート5,6参照													
東北東京間 連系線	東北⇒東京	12~392※1	12~392※1	12~392※1	12~342※1	22~352※1	22~352※1	22~472※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1		
	東京⇒東北	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22		
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600		
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600		
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~700※2	0~700※2	0~700※2	4/6,7,13,14,20,21, 4/27~5,6,5/11, 12,18,19,23,26は 0,12/28~31は0 ~700	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

(注) ・ 想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・ 範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1: 北海道風力実証分12MW (4~7月), 22MW (8~3月) に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~380MW (4~6月, 11~3月), 0~330MW (7~9月), 0~450MW (10月) を加えたもの。
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW (4~12月), 0~700MW (1月~3月)

1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）〔北本連系設備〕 5

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	252	262	292	292	292	312	322	322	272	312	312	312
	東北⇒北海道	522	522	542	542	542	552	552	552	532	552	552	552
	方向	7月				8月				9月			
	北海道⇒東北	252	312	292	302	262	322	302	322	272	332	312	322
	東北⇒北海道	442	472	462	462	452	482	472	482	452	482	472	482
	方向	10月				11月				12月			
	北海道⇒東北	262	312	312	312	232	262	272	262	182	202	222	202
	東北⇒北海道	452	472	472	472	432	452	452	452	512	522	532	522
	方向	1月				2月				3月			
	北海道⇒東北	152	152	232	202	172	152	222	172	232	232	292	262
	東北⇒北海道	492	502	542	522	502	502	532	502	532	542	562	552

(注)・表中の略記については、「平:平日、休:休日、P:昼間帯、N:夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

<北本作業時等は次頁>



1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）〔北本連系設備〕 6

〔北本作業時等〕

(単位：MW)

連系線	方向	4月 (運用容量600MW時)				4月 (運用容量300MW時)				備考
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	12	12	12	12	12	12	-	-	(4月運用容量600MW) 平P・N 8~9,10~12日 休P・N 7日
	東北⇒北海道	522	522	542	542	300	300	-	-	
	方向	5月 (運用容量300MW時)				6月 (運用容量600MW時)				備考
	北海道⇒東北	12	12	22	22	12	12	12	12	
	東北⇒北海道	300	300	300	300	532	552	552	552	(6月運用容量600MW) 平P 4~7日 平N 4~7,10日 休P・N 8~9日
	方向	6月 (運用容量300MW時)				6月 (苫東厚真4G中間点検時)				備考
	北海道⇒東北	12	12	-	-	272	312	312	312	
	東北⇒北海道	300	300	-	-	452	472	472	472	(6月苫東厚真4G中間点検) 平P・N 27,28日 休P・N 29,30日
	方向	7月 (運用容量600MW時)				8月 (運用容量600MW時)				備考
	北海道⇒東北	12	12	12	12	22	22	22	22	
	東北⇒北海道	442	472	462	462	452	482	472	482	(8月運用容量600MW) 平P・N 30日 休P・N 31日
	方向	8月 (運用容量300MW時)				9月 (運用容量600MW時)				備考
	北海道⇒東北	22	-	-	-	22	32	22	22	
	東北⇒北海道	300	-	-	-	452	482	472	482	(9月運用容量600MW) 平P・N 2~6,9~13,17~20,24~ 27日 休P・N 1,7,8,14~16,21~23,28日
	方向	9月 (運用容量300MW時)				10月 (運用容量600MW時)				備考
	北海道⇒東北	-	-	22	-	262	-	312	-	
	東北⇒北海道	-	-	300	-	452	-	472	-	(10月運用容量600MW) 平P 3,4,7~10日 休P 5,6日
	方向	11月 (運用容量800MW時)				11月 (苫東厚真4G中間点検試験運転時)				備考
	北海道⇒東北	132	-	-	-	232	262	272	262	
	東北⇒北海道	432	-	-	-	532	552	552	552	(11月苫東厚真4G中間点検試験運転) 平P・N 25~29日 休P・N 30日
	方向	1月 (運用容量600MW時)				2月 (運用容量600MW時)				備考
	北海道⇒東北	22	22	22	22	22	22	22	22	
	東北⇒北海道	492	502	542	522	502	502	532	502	(2月運用容量600MW) 平P・N 3~7,10,12~14,17~21, 25~28日 休P・N 1,2,8,9,11,15,16,22~24, 29日
	方向	3月 (運用容量600MW時)				3月 (運用容量300MW時)				備考
北海道⇒東北	22	22	22	22	22	22	-	-	(3月運用容量600MW) 平P・N 2~6,9~13,16~19,23~ 27,30,31日	
東北⇒北海道	532	542	562	552	300	300	-	-	(3月運用容量300MW) 平P・N 31日 休P・N 1,7,8,14,15,20~22,28,29日	

(注)・表中の略記については、「平:平日、休:休日、P:昼間帯、N:夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）平日

7

(単位：MW)

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線時
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート9,10参照												
	東北⇒北海道	シート9,10参照												
東北東京間 連系線	東北⇒東京	22~472 ^{*1}	22~472 ^{*1}	22~402 ^{*1}	22~352 ^{*1}	27~357 ^{*1}	27~357 ^{*1}	28~408 ^{*1}	30~410 ^{*1}	30~410 ^{*1}	30~410 ^{*1}	31~411 ^{*1}	40~420 ^{*1}	5,15,18~22,25~29は22~402
	東京⇒東北	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40	
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0~590 ^{*2}	夜間は0											
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~930 ^{*3}	4/6~10,13,14,5/7,8,11~15,18~21,22,25~29,6/1~5,10/14,15,30,4/1は0~70											
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注)・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

※1: 北海道風力実証分22MW(4~7月),27MW(8,9月),28MW(10月),30MW(11~1月),31MW(2月),40MW(3月)に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW(4,5月),0~380MW(6月,10~3月),0~330MW(7~9月)を加えたもの。

※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW

※3: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW

2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）休日

8

(単位：MW)

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線時
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート9,10参照												
	東北⇒北海道	シート9,10参照												
東北東京間 連系線	東北⇒東京	22~472 ^{*1}	22~472 ^{*1}	22~402 ^{*1}	22~352 ^{*1}	27~357 ^{*1}	27~357 ^{*1}	28~408 ^{*1}	30~410 ^{*1}	30~410 ^{*1}	30~410 ^{*1}	31~411 ^{*1}	40~420 ^{*1}	5,16,17,23,24,30,31,32は22~402
	東京⇒東北	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40	
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~930 ^{*2}	4/4,5,11,12,5/9,10,16,17,23,24,30,31,6は0											
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注)・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

※1: 北海道風力実証分22MW(4~7月),27MW(8,9月),28MW(10月),30MW(11~1月),31MW(2月),40MW(3月)に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW(4,5月),0~380MW(6月,10~3月),0~330MW(7~9月)を加えたもの。

※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW

2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）〔北本連系設備〕9

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	262	272	302	302	302	322	332	332	282	322	322	322
		東北⇒北海道	552	552	572	572	572	582	582	582	562	582	582
	方向	7月				8月				9月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
	北海道⇒東北	262	322	302	312	267	327	307	327	277	337	317	327
		東北⇒北海道	552	582	572	572	557	587	577	587	557	587	577
	方向	10月				11月				12月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
	北海道⇒東北	268	318	318	318	240	270	280	270	190	210	230	210
		東北⇒北海道	558	578	578	578	540	560	560	560	520	530	540
	方向	1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
	北海道⇒東北	160	160	240	210	181	161	231	181	250	250	310	280
		東北⇒北海道	500	510	550	530	511	511	541	511	550	560	580

(注)・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）〔北本連系設備〕10

〔北本作業時等〕

(単位：MW)

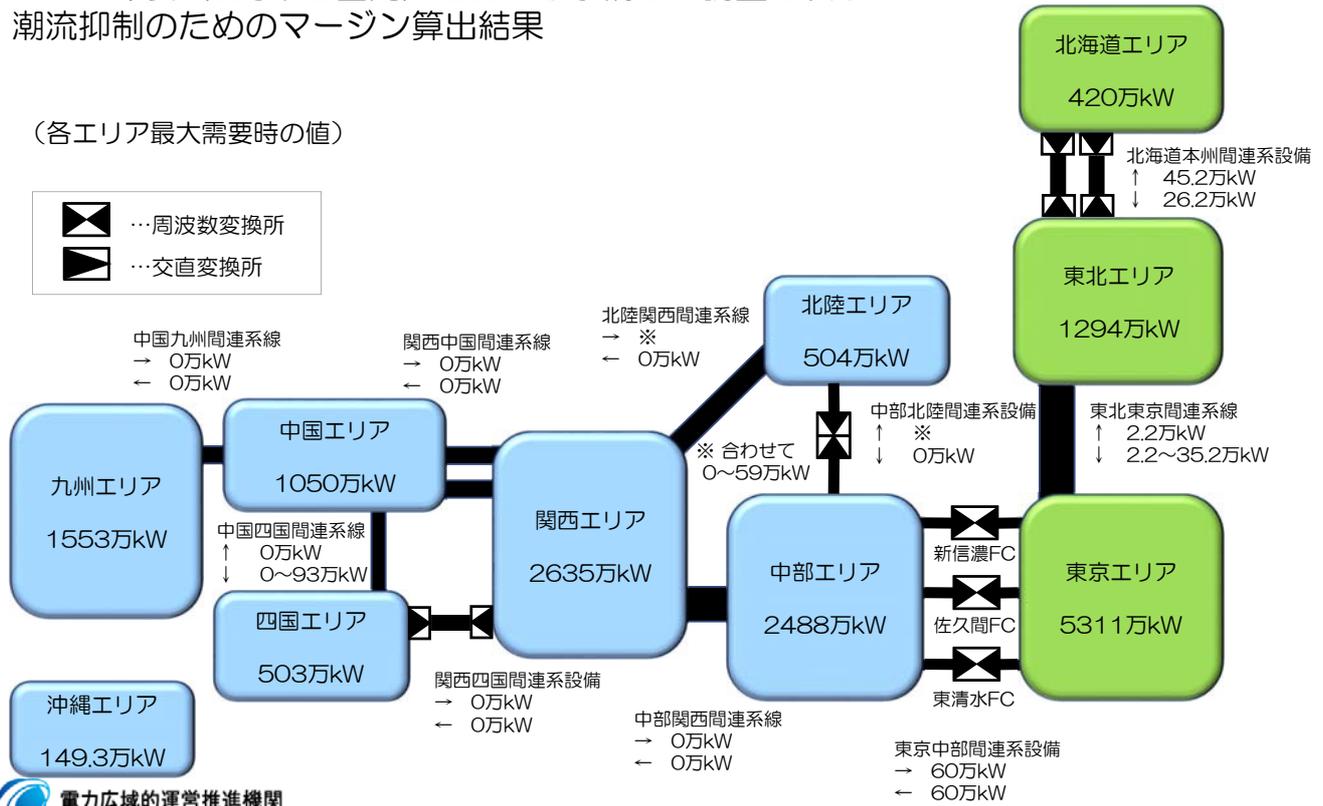
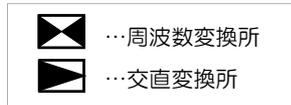
連系線	方向	4月（運用容量600MW時）				4月（運用容量300MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N		
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	22	22	22	22	22	22	22	22	(4月運用容量600MW) 平P・N 6~10,13~17,20~24,27, 28日 休P・N 5,11,12,18,19,25,26,29, 30日	(4月運用容量300MW) 平P・N 1~3日 休P・N 4日
		東北⇒北海道	552	552	572	572	300	300	300		
	方向	5月（運用容量600MW時）				6月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N		
	北海道⇒東北	22	22	32	32	22	22	22	22	(5月運用容量600MW) 平P・N 7,8,11~15,18~22,25~ 29日 休P・N 1~6,9,10,16,17,23,24, 30,31日	(6月運用容量600MW) 平P・N 1~5,8~12,15~19日 休P・N 6,7,13,14,20,21日
		東北⇒北海道	572	582	582	582	562	582	582		
	方向	6月（運用容量300MW時）				8月（運用容量600MW(北本作業)時)				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N		
	北海道⇒東北	22	22	22	22	27	27	27	27	(6月運用容量300MW) 平P・N 22~26,29,30日 休P・N 27,28日	(8月運用容量600MW(北本作業)) 平P・N 21日 休P 22日 休N 22,23日 ※北本300MW、新北本300MW
		東北⇒北海道	300	300	300	300	557	587	577		
	方向	8月（運用容量600MW(新北本作業)時)				8月（運用容量300MW時)				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N		
	北海道⇒東北	267	327	307	327	27	27	27	-	(8月運用容量600MW(新北本作業)) 平P・N 26~28,31日 休P・N 29,30日 ※北本600MW、新北本0MW	(8月運用容量300MW) 平P・N 20日 休P 23日
		東北⇒北海道	557	587	577	587	300	300	300		
方向	9月（運用容量600MW(新北本作業)時)				9月（運用容量600MW(北本作業)時)				備考		
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N			
北海道⇒東北	277	337	317	327	27	37	27	27	(9月運用容量600MW(新北本作業)) 平P・N 1~4,7,8日 休P・N 5,6日 ※北本600MW、新北本0MW	(9月運用容量600MW(北本作業)) 平P・N 11,14,15日 休P・N 12,13日 ※北本300MW、新北本300MW	
	東北⇒北海道	557	587	577	587	557	587	577			587

(注)・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

2019年度（8月平日昼間）における予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン算出結果

（各エリア最大需要時の値）



電力広域的運営推進機関
 Organization for Cross-regional Coordination of
 Transmission Operators, JAPAN

・各エリア内数値は、2019年度（8月）送電端最大3日平均電力予想（H3）を表す。

以下参考

(単位: MW)

方向	区分	4月				5月				6月				7月			
		平P	平N	休P	休N												
北海道⇒東北	C1	240	250	280	280	280	300	310	310	260	300	300	300	240	300	280	290
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
東北⇒北海道		252	262	292	292	292	312	322	322	272	312	312	312	252	312	292	302
	B1	510	510	530	530	530	540	540	540	520	540	540	540	430	460	450	450
	C1	430	430	450	450	450	460	460	460	440	460	460	460	430	460	450	450
	BO	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		522	522	542	542	542	552	552	552	532	552	552	552	442	472	462	462
方向	区分	8月				9月				10月				11月			
		平P	平N	休P	休N												
北海道⇒東北	C1	240	300	280	300	250	310	290	300	240	290	290	290	210	240	250	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
東北⇒北海道		262	322	302	322	272	332	312	322	262	312	312	312	232	262	272	262
	B1	430	460	450	460	430	460	450	460	430	450	450	450	410	430	430	430
	C1	430	460	450	460	430	460	450	460	430	450	450	450	410	430	430	430
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		452	482	472	482	452	482	472	482	452	472	472	472	432	452	452	452
方向	区分	12月				1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N												
北海道⇒東北	C1	160	180	200	180	130	130	210	180	150	130	200	150	210	210	270	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
東北⇒北海道		182	202	222	202	152	152	232	202	172	152	222	172	232	232	292	262
	B1	490	500	510	500	470	480	520	500	480	480	510	480	510	520	540	530
	C1	390	400	410	400	370	380	420	400	380	380	410	380	410	420	440	430
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		512	522	532	522	492	502	542	522	502	502	532	502	532	542	562	552

(説明) ・表中の略記については、「平:平日、休:休日、P:昼間帯、N:夜間帯」を意味する。
 ・区分についてはシート27、28を参照。
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値。東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分BOの値を加えた値をマージンの値とする。
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・平成30年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電に関する検証委員会最終報告(2018.12.19)により、運用上の中長期対策として、北海道本州間連系設備のマージン再評価の結果、東北⇒北海道向きのマージンについては、北海道本州間連系設備増強後の考え方からの変更はない。

【平日・休日】

(単位: MW)

方向	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北⇒東京	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C2	0~380	0~380	0~380	0~330	0~330	0~330	0~450	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	BO	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
東京⇒東北		12~392	12~392	12~392	12~342	22~352	22~352	22~472	22~402	22~402	22~402	22~402	22~402
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
		12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22

(説明) ・区分についてはシート27、28を参照。
 ・東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にBOを加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にBOを加えた値とする。
 ・北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(単位: MW)

方向	区分	4月				5月				6月				7月			
		平P	平N	休P	休N												
北海道⇒東北	C1	240	250	280	280	280	300	310	310	260	300	300	300	240	300	280	290
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		262	272	302	302	302	322	332	332	282	322	322	322	262	322	302	312
東北⇒北海道	B1	530	530	550	550	550	560	560	560	540	560	560	560	530	560	550	550
	C1	430	430	450	450	450	460	460	460	440	460	460	460	430	460	450	450
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		552	552	572	572	572	582	582	582	562	582	582	582	552	582	572	572
方向	区分	8月				9月				10月				11月			
		平P	平N	休P	休N												
北海道⇒東北	C1	240	300	280	300	250	310	290	300	240	290	290	290	210	240	250	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	27	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	28	30	30	30	30
		267	327	307	327	277	337	317	327	268	318	318	318	240	270	280	270
東北⇒北海道	B1	530	560	550	560	530	560	550	560	530	550	550	550	510	530	530	530
	C1	430	460	450	460	430	460	450	460	430	450	450	450	410	430	430	430
	BO	27	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	28	30	30	30	30
		557	587	577	587	557	587	577	587	558	578	578	578	540	560	560	560
方向	区分	12月				1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N												
北海道⇒東北	C1	160	180	200	180	130	130	210	180	150	130	200	150	210	210	270	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	30	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	40	40	40	40
		190	210	230	210	160	160	240	210	181	161	231	181	250	250	310	280
東北⇒北海道	B1	490	500	510	500	470	480	520	500	480	480	510	480	510	520	540	530
	C1	390	400	410	400	370	380	420	400	380	380	410	380	410	420	440	430
	BO	30	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	40	40	40	40
		520	530	540	530	500	510	550	530	511	511	541	511	550	560	580	570

(説明) ・表中の略記については、「平:平日、休:休日、P:昼間帯、N:夜間帯」を意味する。
 ・区分についてはシート27、28を参照。
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分BOの値を加えた値をマージンの値とする。
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・平成30年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電に関する検証委員会最終報告(2018.12.19)により、運用上の中長期対策として、北海道本州間連系設備のマージン再評価の結果、東北⇒北海道向きのマージンについては、北海道本州間連系設備増強後の考え方からの変更はない。

【平日・休日】

(単位: MW)

方向	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北⇒東京	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C2	0~450	0~450	0~380	0~330	0~330	0~330	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	BO	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40
		22~472	22~472	22~402	22~352	27~357	27~357	28~408	30~410	30~410	30~410	31~411	40~420
東京⇒東北	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40
		22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40

(説明) ・区分についてはシート27、28を参照。
 ・東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にBOを加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にBOを加えた値とする。
 ・北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値(2019年度)平日 17

(単位: MW)

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート18,19参照												
	東北⇒北海道	シート18,19参照												
東北東京間 連系線	東北⇒東京	572	512	622	812	822	702	532	622	682	722	722	672	
	東京⇒東北	シート18参照												
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	640	770	770	680	600	600	690	710	710	650	
	中部⇒東京	600	600	620	800	800	680	600	610	660	710	710	650	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	700	500	500	700	700	700	700	700	700	700	700	700	夜間は0
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	60	50	60	70	70	60	50	60	70	70	70	60	
	北陸⇒関西	60	50	60	70	70	60	50	60	70	70	70	60	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	250	260	300	370	370	320	270	270	330	330	330	300	
	関西⇒中部	280	290	310	380	380	330	300	300	340	350	350	330	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	230	230	260	320	320	280	240	260	300	310	310	280	
	中国⇒関西	250	250	290	360	360	320	260	270	320	330	330	300	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	930	930	930	930	930	930	930	930	930	700	700	700	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



(参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値(2019年度)平日 18

【北本連系設備】

(単位: MW)

連系線	方向	4月		5月		6月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	252	262	292	312	512	512
	東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*
	方向	7月		8月		9月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
	北海道⇒東北	512	512	522	522	522	522
	東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*
	方向	10月		11月		12月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
	北海道⇒東北	262	312	232	262	192	202
	東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*
	方向	1月		2月		3月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
	北海道⇒東北	202	202	202	202	232	232
	東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*

(注)・表中の略記については、「平:平日、P:昼間帯、N:夜間帯」を意味する。
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ※予備力によるマージン値に変化なし

【東北東京間連系線(東京⇒東北)】

(単位: MW)

平休日	昼夜	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平日	昼間	322	302	322	370	330	362	332	370	402	422	422	390
	夜間	280	240	260 ^{※1}	280	240	280	270	290	360	390	430	360

※1: 6/13~14,17~19は272 (いずれも送電線等作業による)

(注)想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。



<北本作業時等は次頁>

(単位: MW)

方向	区分	4月		5月		6月		7月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道⇒東北	C1	240	250	280	300	260	300	240	300
	A1	140	140	130	130	500	500	500	500
	BO	12	12	12	12	12	12	12	12
		252	262	292	312	512	512	512	512
方向	区分	8月		9月		10月		11月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道⇒東北	C1	240	300	250	310	240	290	210	240
	A1	500	500	500	500	130	130	150	150
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22
		522	522	522	522	262	312	232	262
方向	区分	12月		1月		2月		3月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道⇒東北	C1	160	180	130	130	150	130	210	210
	A1	170	170	180	180	180	180	170	170
	BO	22	22	22	22	22	22	22	22
		192	202	202	202	202	202	232	232

(説明) ・表中の略記については、「平: 平日、P: 昼間帯、N: 夜間帯」を意味する。
 ・区分についてはシート27、28を参照。
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値に、区分BOの値を加えた値をマージンの値とする。
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

【平日】

(単位: MW)

方向	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北⇒東京	A1	560	500	610	800	800	680	510	600	660	700	700	650
	C2	0~380	0~380	0~380	0~330	0~330	0~330	0~450	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	BO	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
東京⇒東北		572	512	622	812	822	702	532	622	682	722	722	672
	A1	310	290	310	370	380	340	310	350	380	400	400	370
	BO	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
【参考】 運用容量	昼間	322	302	322	382	402	362	332	372	402	422	422	392
	夜間	350	320	350	370	330	370	350	370	440	460	480	390
		280	240	260	280	240	280	270	290	360	390	430	360

(説明) ・区分についてはシート27、28を参照。
 ・東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にBOを加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にBOを加えた値とする。
 ・ 箇所は、昼間や夜間に運用容量を超えたマージンとなる場合があることから、昼間・夜間帯別に運用容量を上限にマージンを設定する(マージンが赤字の値となる)。想定需要の見直しや系統構成の見直し等により運用容量が変更となる場合は、マージンも変更する。
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(単位: MW)

連系線	方向	2020年	備考*
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	527	8月平日昼間3%
	東北⇒北海道	—	予備力によるマージン値に変化なし
東北東京間 連系線	東北⇒東京	817	8月平日昼間3%
	東京⇒東北	430	1月平日昼間3%
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	770	8月平日昼間3%
	中部⇒東京	800	8月平日昼間3%
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	
	中部⇒北陸	700	最大機
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸		
	北陸⇒関西	70	8月平日昼間3%
中部関西間 連系線	中部⇒関西	360	8月平日昼間3%
	関西⇒中部	380	8月平日昼間3%
関西中国間 連系線	関西⇒中国	320	8月平日昼間3%
	中国⇒関西	360	8月平日昼間3%
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	
	四国⇒関西	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	930	最大機
	四国⇒中国	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	
	九州⇒中国	0	

※各連系線・連系設備におけるマージンの設定値の考え方の詳細は、別紙3「実需給断面におけるマージンの設定の考え方及び確保理由について」を参照

【北本連系設備】

(単位: MW)

方向	区分	2020年8月
北海道⇒東北	C1	240
	A1	500
	B0	27
		527

(説明) ・区分についてはシート27、28を参照。
・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする。
・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

【東北東京間連系線】

(単位: MW)

方向	区分	2020年8月
東北⇒東京	A1	790
	C2	0~330
	B0	27
		817

(説明) ・区分についてはシート27、28を参照。
・東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にB0を加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にB0を加えた値とする。
・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(単位: MW)

方向	区分	2020年1月
東京⇒東北	A1	400
	B0	30
		430
【参考】 運用容量	昼間	2360
	夜間	2360

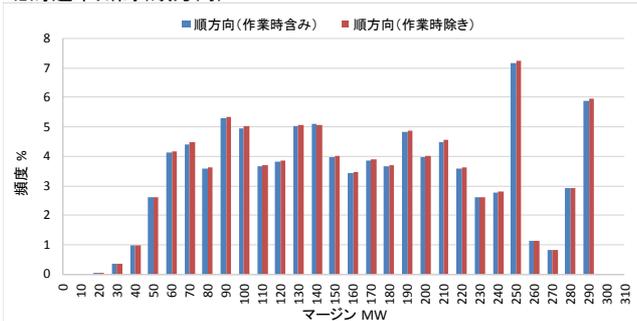
- ▶ 2018年10月1日~2019年2月10日 (48コマ (30分コマ) × 133日)
- ▶ 当日断面における最終値

連系線名	方向	作業	平均 (MW)	最小 (MW)	最大 (MW)	最頻値(MW)	最頻度数 (個)	母数 (個)
						【最もデータ数が多い値】 括弧内は最頻値発生率		
北海道本州間 連系設備※	順方向	作業時含み	162	0	290	250 (7.2%)	458	6,384
		作業時除き	164	20	290	250 (7.2%)	458	6,322
	逆方向	作業時含み	473	300	540	460 (10.8%)	691	6,384
		作業時除き	475	410	540	460 (10.9%)	691	6,327
東北東京間 連系線※	順方向	作業時含み	29	0	460	12 (47.7%)	3,048	6,384
		作業時除き	29	0	460	12 (47.7%)	3,048	6,384
	逆方向	作業時含み	9	0	12	12 (43.3%)	2,766	6,384
		作業時除き	9	0	12	12 (43.3%)	2,766	6,384
東京中部間 連系線	順方向	作業時含み	600	600	600	600 (100.0%)	6,384	6,384
		作業時除き	600	600	600	600 (100.0%)	3,512	3,512
	逆方向	作業時含み	600	600	600	600 (100.0%)	6,384	6,384
		作業時除き	600	600	600	600 (100.0%)	3,512	3,512
中部関西間連系線	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
北陸フェンス	順方向	作業時含み	108	0	530	0 (64.9%)	4,144	6,384
		作業時除き	109	0	530	0 (64.8%)	4,132	6,372
北陸関西間連系線	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
関西中国間連系線	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
中国四国間連系線	順方向	作業時含み	120	0	670	0 (54.0%)	3,448	6,384
		作業時除き	121	0	670	0 (53.8%)	3,419	6,355

※ 北海道本州間、東北東京間のマージンは北海道風力実証分を含む。(東北東京間の逆方向は風力実証マージンのみ)

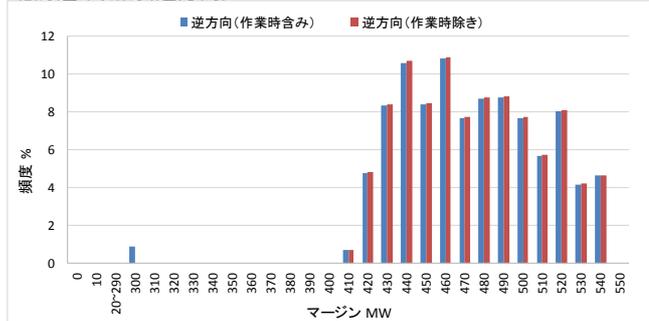


北海道本州間(順方向)



(参考) 北海道本州間 (順方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は132~292MW※1

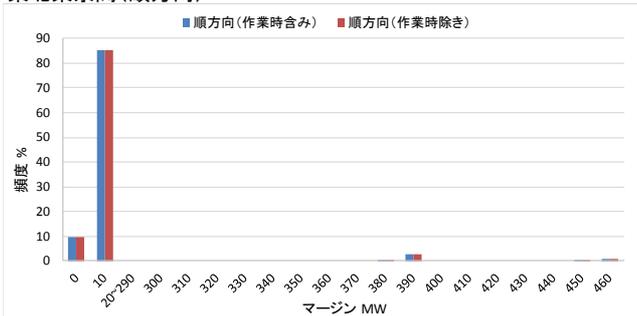
北海道本州間(逆方向)



(参考) 北海道本州間 (逆方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は462~542MW※1

※1 北海道本州間連系設備のマージンは実需給断面では断面細分化に伴い年間計画より小さい値も設定される。

東北東京間(順方向)



(参考) 東北東京間 (順方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は12~462MW

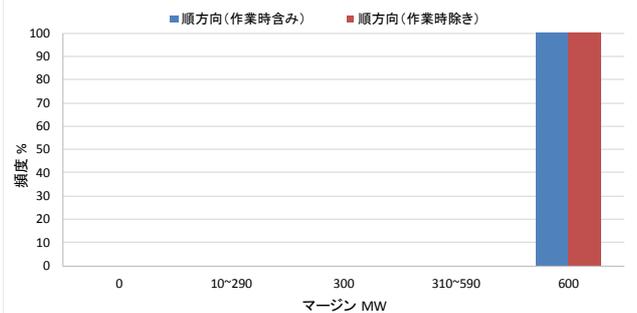
東北東京間(逆方向)



(参考) 東北東京間 (逆方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は12MW

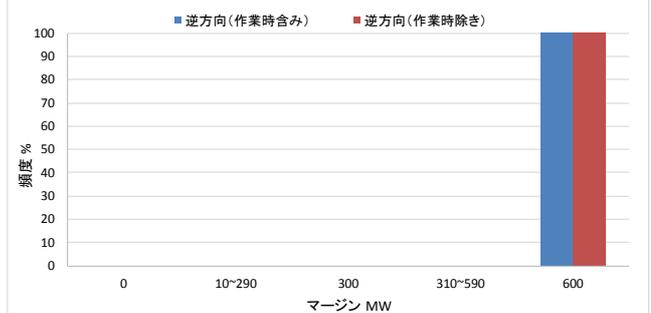
※ 年間計画のマージンは常時 (作業時除き) の値で記載

東京中部間(順方向)



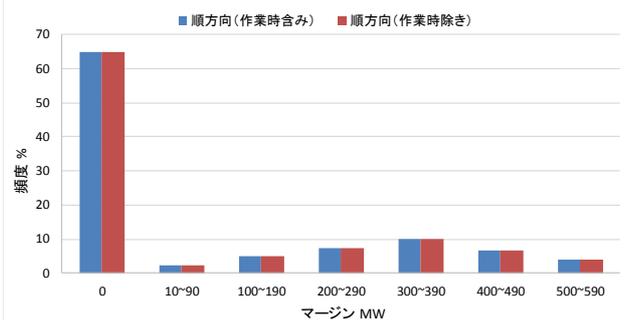
(参考) 東京中部間 (順方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は600MW

東京中部間(逆方向)



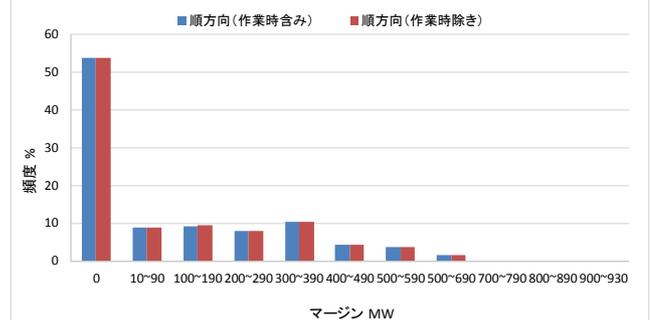
(参考) 東京中部間 (逆方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は600MW

北陸フェンス(順方向)



(参考) 北陸フェンス (順方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は0~590MW

中国四国間(順方向)



(参考) 中国四国間 (順方向) の当該期間 (10~2月) における年間計画値は0~930MW

※ 年間計画のマージンは常時 (作業時除き) の値で記載

翌々日断面でマージンを設定している連系線のスポット市場分断状況について確認した結果は以下の通り。

期間: 2018/10~2019/2 (10日まで)

(参考: 間接オークション導入前)
期間: 2017/10~2018/9

連系線	方向	作業	スポット分断	内マージン設定時	スポット分断	内マージン設定時
北海道本州間 連系設備	順方向	作業時含み	1 (0.0%)	1 (0.0%)	259 (1.5%)	256 (1.5%)
		作業時除く	1 (0.0%)	1 (0.0%)	256 (1.5%)	256 (1.5%)
	逆方向	作業時含み	6,208 (97.2%)	6,208 (97.2%)	13,715 (78.3%)	13,677 (78.1%)
		作業時除く	6,146 (96.3%)	6,146 (96.3%)	12,605 (71.9%)	12,605 (71.9%)
東北東京間 連系線	順方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	219 (1.3%)	50 (0.3%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (0.1%)	0 (0.0%)
	逆方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
東京中部間 連系設備	順方向	作業時含み	82 (1.3%)	82 (1.3%)	3,483 (19.9%)	3,483 (19.9%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,913 (10.9%)	1,913 (10.9%)
	逆方向	作業時含み	5,594 (87.6%)	5,594 (87.6%)	7,544 (43.1%)	7,544 (43.1%)
		作業時除く	3,270 (51.2%)	3,270 (51.2%)	5,734 (32.7%)	5,734 (32.7%)
北陸フェンス	順方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
中国四国間 連系設備	順方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※ 数値は、30分コマ数で記載 ()内に各期間に占める割合(%)を示す。
作業は翌々日段階での計画分を抽出した。

東北東京間連系線について、リスクが高まることが見られる場合に潮流抑制のためのマージンを設定しているが、作業時を除けば、マージン設定によるスポット市場への影響は認められない。

内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保する調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力システムの異常時に電力システムの周波数を安定に保つために設定するマージン ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I - a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		・北海道風力実証試験	・東京中部間連系設備 (EPPS: 逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS: 順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源IIの余力も含む。
 ※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。
 ※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2に「北海道風力実証試験」を追記
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力システムの異常時に電力システムを安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④ ・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	C2 旧④ ・東北東京間連系線 (潮流抑制)

【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D (該当なし)

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

2021～2028年度の予備力・調整力 及び潮流抑制のためのマージン (長期計画)

2019年3月1日

〈説明〉 長期断面におけるマージンの値

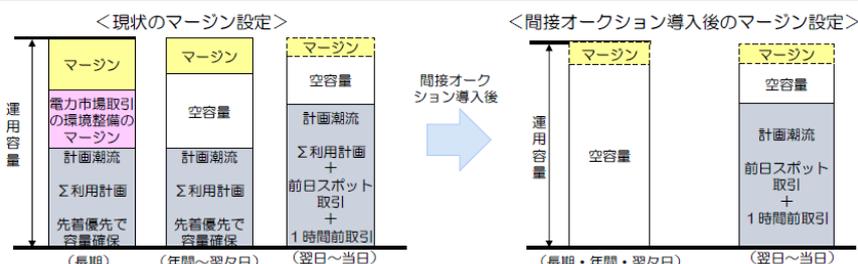
2

- ◆ 実需給断面におけるマージンが必要な場合を除き、原則としてマージンの値をゼロとする。
- ◆ 実需給断面において、マージンを設定する蓋然性があるものの、計画段階では値を確定することが困難な連系線については、実需給断面において設定する蓋然性のある値の範囲で設定する。なお、系統情報サービス上は蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

主な業務規程・送配電等業務指針変更点：マージンの設定断面について（変更）

17

- 現行ルールでは、「先着優先」で長期断面から利用計画により容量登録されるため、長期～実需給断面においてマージンを設定している。
- 連系線利用ルールが「間接オークション」に変更され前日スポット取引以降に容量登録されるため、**翌々日断面において実需給断面を考慮したマージンが設定されていけばよい。**
- 他方、供給計画を基にした需給バランス評価など予見性の観点から、長期・年間断面においてもマージンを設定しておく必要がある。
- 上記より、マージン設定の断面は「長期・年間・翌々日」とし、現行ルールで実施していた**マージン減少は不要なため削除**する。【規程第128条、第129条】（変更）



※ 年間・月間・翌々日の断面で実需給断面に向けマージンを減少
※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

業務規程・送配電等業務指針（変更）の検討について
出典：広域機関HP 策定・変更に関するお知らせ 2017年度

(MW)

連系線	方向	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	備考
北海道本州間連系設備	北海道⇒東北	170 【350】	130 【310】	最大需要時の値(1月平日昼間) マージン最大値(6月休日夜間)						
	東北⇒北海道	510 【600】	470 【560】	最大需要時の値(1月平日昼間) マージン最大値(6月休日夜間)						
東北東京間連系線	東北⇒東京	40～490 ^{※1}	0～450 ^{※1}	最大需要時の値(1月平日昼間)						
	東京⇒東北	40	0	0	0	0	0	0	0	最大需要時の値(1月平日昼間)
東京中部間連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	EPPS_600MW
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	EPPS_600MW
北陸フェンス	中部⇒北陸	0～590 ^{※2}	0～590 ^{※2}	0～590 ^{※2}	0～590 ^{※2}	0～590 ^{※2}	0～590 ^{※2}	0～590 ^{※2}	0～590 ^{※2}	
	関西⇒北陸									
中国四国間連系線	中国⇒四国	0～930 ^{※3}	0～930 ^{※3}	0～930 ^{※3}	0～930 ^{※3}	0～930 ^{※3}	0～930 ^{※3}	0～930 ^{※3}	0～930 ^{※3}	
上記以外		0	0	0	0	0	0	0	0	

注) ・増強により運用容量が増加する東京中部間連系設備(+90万kW:2020年度運開予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討)
 ・北海道風力実証試験にかかるマージンの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未定であることから、別途設定する。

- ・想定需要の見直し等(北海道本州間連系設備の東北⇒北海道のみ)や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
- ・【】の値は、最大需要時以外で空容量が小さくなると想定される断面のマージンの値を示す。
- ・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1:2021年度は、北海道風力実証分 40MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0～450MW(過去実績)を加えたもの
 2022～2028年度は実需給断面において設定する蓋然性のある値0～450MW(過去実績)
 (最大需要時の値(8月平日昼間))
 ※2:実需給断面において設定する蓋然性のある値0～590MW (最大値(過去実績))
 ※3:実需給断面において設定する蓋然性のある値0～930MW (最大値(過去実績))

以下参考

【最大需要時】

(単位: MW)

方向	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
北海道⇒東北	C1	130	130	130	130	130	130	130	130
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		170	130						
東北⇒北海道	B1	470	470	470	470	470	470	470	470
	C1	370	370	370	370	370	370	370	370
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		510	470						

【マージン最大時】

(単位: MW)

方向	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
北海道⇒東北	C1	310	310	310	310	310	310	310	310
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		350	310						
東北⇒北海道	B1	560	560	560	560	560	560	560	560
	C1	460	460	460	460	460	460	460	460
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		600	560						

- (説明)
- ・区分についてはシート9、10を参照。
 - ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、BOの値を加えた値をマージンの値とする。
 - ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 - ・区分BOの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未確定のことから、別途設定する。

(単位: MW)

方向	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
東北⇒東京	A1	0	0	0	0	0	0	0	0
	C2	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		40~490	40~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450
東京⇒東北	A1	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		40	0	0	0	0	0	0	0

- (説明)
- ・区分についてはシート9、10を参照。
 - ・東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にBOを加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にBOを加えた値とする。
 - ・北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 - ・区分BOの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未確定のことから、別途設定する。

(参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値 (2021~2028年度) 7

(単位: MW)

連系線	方向	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	備考*1	2018年度(10月~2月)における当日断面での実績平均値*2
北海道本州間連系設備	北海道⇒東北	540	500	500	500	500	500	500	500	(8月平日昼間3%)	164
	東北⇒北海道	—	—	—	—	—	—	—	—	予備力によるマージン値変化なし	475
東北東京間連系線	東北⇒東京	830	790	790	800	800	800	800	800	(8月平日昼間3%)	29
	東京⇒東北	440	400	400	400	400	400	390	390	(1月平日昼間3%)	9
東京中部間連系設備	東京⇒中部	770	770	760	760	760	760	750	750	(8月平日昼間3%)	600
	中部⇒東京	800	800	800	800	800	800	800	800	(8月平日昼間3%)	600
中部北陸間連系設備	中部⇒北陸	700	700	700	700	700	700	700	700	(最大機)	109
北陸関西間連系設備	関西⇒北陸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	北陸⇒関西	70	70	70	70	70	70	70	70	(8月平日昼間3%)	0
中部関西間連系線	中部⇒関西	360	360	360	360	360	360	360	350	(8月平日昼間3%)	0
	関西⇒中部	380	380	370	370	370	370	370	370	(8月平日昼間3%)	0
関西中国間連系線	関西⇒中国	320	320	320	320	320	320	320	320	(8月平日昼間3%)	0
	中国⇒関西	360	360	360	350	350	350	350	350	(8月平日昼間3%)	0
中国四国間連系線	中国⇒四国	930	930	930	930	930	930	930	930	(最大機)	121

注) ・増強により運用容量が増加する東京中部間連系設備(+90万kW:2020年度運用予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討)
 ・北海道風力実証試験にかかるマージンの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未定であることから、別途設定する。

・上記表の値は、以下の考え方及び現時点の需要想定等に基づき、実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となる場合の最大値を算出し、参考で示したものである。

(考え方) 電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力(但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする)に対して不足する電力の値。

・想定需要の見直し等(北海道本州間連系設備の東北⇒北海道のみ)や北海道風力実証試験発電機の運用月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・平成30年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電に関する検証委員会最終報告(2018.12.19)により、運用上の中長期対策として、北海道本州間連系設備のマージン再評価の結果、東北⇒北海道向きのマージンについては、北海道本州間連系設備増強後の考え方からの変更はない。

※1:各連系線・連系設備におけるマージンの設定値の考え方の詳細は、別紙3「実需給断面におけるマージンの設定の考え方及び確保理由について」を参照。

※2:2018年4月~2019年3月の当日断面におけるマージン実績平均値(作業時除く。「2019・2020年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画)」のマージン設定実績詳細シート23参照)。

(参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値の内訳 8

【北本連系設備】

(単位: MW)

方向	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
北海道⇒東北	C1	240	240	240	240	240	240	240	240
	A1	500	500	500	500	500	500	500	500
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		540	500	500	500	500	500	500	500

(説明) ・区分についてはシート9、10を参照。
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値に、BOの値を加えた値をマージンの値とする。
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運用月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・区分BOの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未確定のことから、別途設定する。

【東北東京間連系線】

(単位: MW)

方向	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
東北⇒東京	A1	790	790	790	800	800	800	800	800
	C2	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450	0~450
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		830	790	790	800	800	800	800	800
東京⇒東北	A1	400	400	400	400	400	400	390	390
	BO	40	-	-	-	-	-	-	-
		440	400	400	400	400	400	390	390

(説明) ・区分についてはシート9、10を参照。
 ・東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にBOを加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にBOを加えた値とする。
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運用月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・区分BOの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未確定のことから、別途設定する。

内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保する調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力システムの異常時に電力システムの周波数を安定に保つために設定するマージン ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I - a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		・北海道風力実証試験	・東京中部間連系設備 (EPPS: 逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS: 順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源IIの余力も含む。
 ※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。
 ※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2に「北海道風力実証試験」を追記
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力システムの異常時に電力システムを安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④ ・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	C2 旧④ ・東北東京間連系線 (潮流抑制)

【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D (該当なし)

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

実需給断面におけるマージンの設定 の考え方及び確保理由について

2019年3月1日

空 白

連系線	方向	マーzinの設定の考え方及び確保理由
北海道本州間連系設備	北海道⇒東北	北海道本州間連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数上昇を一定値以内に抑制するため。具体的には、次の①～③のうち大きい値とする。 ①北海道・本州間電力連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉 ②北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉 ③※1（最大値は、東京エリアの系統容量の3%相当の半量のうち、東京エリアが需給ひっ迫した場合において北海道エリアから供給が期待できる値）〈A1〉 また、上記に加え、※2を加える。〈B0〉
	東北⇒北海道	北海道エリアの電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力が故障等により失われた場合にも、北海道エリアの周波数低下を一定値以内に抑制するため。なお単一の電源の最大出力は発電計画等を踏まえ設定する。〈B1〉 但し、次の①、②のいずれかが、上記の値よりも大きい場合は①、②のうち大きい方の値とする。 ①北海道・本州間電力連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数低下が一定値以内となる潮流の値を差し引いた値。〈C1〉 ②北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の低下が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉 また、上記に加え、※2を加える。〈B0〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマーzinとして設定する
- ※2 北海道風力実証試験に係るマーzinとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値

(注) 〈 〉はマーzinの区分を示す。シート7、8参照



連系線	方向	マーzinの設定の考え方及び確保理由
東北東京間連系線	東北⇒東京	次の①～②のうち大きい値とする。 ①※1（最大値は、東京エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）の半量）〈A1〉 ②台風や暴風雪等の予見可能なリスクが高まった場合は、電力システムを安定に維持するため、東京エリア内で想定する送電線の故障により複数の電源が脱落した場合に東北エリアから東京エリアに流れる最大の潮流の値〈C2〉 また、上記に加え、※2を加える。〈B0〉
	東京⇒東北	※1（最大値は、東北エリアの融通期待量（系統容量の3%相当））〈A1〉 また、上記に加え、※2を加える。〈B0〉
東京中部間連系設備	東京⇒中部	60Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合又は最大電源が脱落した場合に、60Hz系統の周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して東北・東京エリアから電力を受給しても、東北・東京エリアの周波数偏差と60Hz系統の周波数偏差が原則逆転しない値とする。〈B2〉 但し、※1（最大値は、中部及び関西エリアの融通期待量（系統容量の合計の3%相当）の半量）の値の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉
	中部⇒東京	50Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合、又は最大電源が脱落した場合に、東北・東京エリアの周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して60Hz系統から電力を受給しても、60Hz系統の周波数偏差と東北・東京エリアの周波数偏差が原則逆転しない値とする。〈B1〉 但し、※1（最大値は、東京エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）の半量）の値の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマーzinとして設定する
- ※2 北海道風力実証試験に係るマーzinとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値

(注) 〈 〉はマーzinの区分を示す。シート7、8参照



連系線	方向	マーシンの設定の考え方及び確保理由
中部北陸間 連系線	北陸⇒中部	なし
	中部⇒北陸	※1（最大値は、北陸エリアの融通期待量（出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は、当該供給量を控除した値とする。以下、最大電源相当量）））、※2〈A1〉
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	※1（最大値は、北陸エリアの融通期待量（出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は、当該供給量を控除した値とする。以下、最大電源相当量）））、※2〈A1〉
	北陸⇒関西	※1（最大値は、関西エリアの融通期待量（系統容量の3%相当））、※3〈A1〉
中部関西間 連系線	中部⇒関西	※1（最大値は、関西エリアの融通期待量（系統容量の3%相当））、※3〈A1〉
	関西⇒中部	※1（最大値は、中部エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）の半量）〈A1〉
関西中国間 連系線	関西⇒中国	※1（最大値は、中国エリアの融通期待量（系統容量の3%相当））〈A1〉
	中国⇒関西	※1（最大値は、関西エリアの融通期待量（系統容量の3%相当））、※3〈A1〉
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	なし
	四国⇒関西	なし
中国四国間 連系線	中国⇒四国	※1（最大値は、四国エリアの融通期待量（最大電源相当量））〈A1〉
	四国⇒中国	なし
中国九州間 連系線	中国⇒九州	なし
	九州⇒中国	なし

※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定する

※2 中部北陸間連系設備及び北陸関西間連系線と合わせて確保する（北陸フェンスにて管理）

※3 北陸関西間連系線、中部関西間連系線及び関西中国間連系線と合わせて確保する（系統容量見合いで配分）

（注）〈 〉はマーシンの区分を示す。シート7、8参照

以下参考

内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保する調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力システムの異常時に電力システムの周波数を安定に保つために設定するマージン ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I - a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		・北海道風力実証試験	・東京中部間連系設備 (EPPS: 逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS: 順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源IIの余力も含む。
 ※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。
 ※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2に「北海道風力実証試験」を追記
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力システムの異常時に電力システムを安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④ ・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	C2 旧④ ・東北東京間連系線 (潮流抑制)

【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D (該当なし)

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

2019～2028 年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画・長期計画)及び実需給断面におけるマージンの設定の考え方及び確保理由について

本機関は、業務規程第 129 条に基づき、第 128 条のマージンの設定の考え方に基づいたマージン検討会の検討を踏まえ、毎年 2 月末までに翌年度以降の長期計画及び年間計画におけるマージンを算出し、その結果を公表することとしております。

2019～2028 年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画・長期計画)を算出したので、別紙 1、別紙 2 のとおり公表いたします。

また、同第 128 条に基づき、実需給断面において確保するマージンの設定の考え方及び確保理由について、別紙 3 のとおり公表いたします。

添付資料

- [別紙 1 2019・2020 年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン\(年間計画\)](#) 
- [別紙 2 2021～2028 年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン\(長期計画\)](#) 
- [別紙 3 実需給断面におけるマージンの設定の考え方及び確保理由について](#) 

※別紙 添付略

※年間計画における日毎の運用容量等詳細は系統情報サービスをご覧ください。(2019 年 3 月 15 日公表予定)

[系統情報サービス](#) > [地域間連系線情報](#) > [連系線空容量参照](#) > [連系線空容量](#)

参考資料

- [マージン検討会の資料](#)

関連リンク

- 2019 年度・2020 年度連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダーを系統情報サービスに掲載しています。

[系統情報サービス](#) > [その他情報](#) > [各種情報参照](#) > [各種情報\(カテゴリ:連系線等の運用\)](#)

情報 NO: OT201900000000「2019 年度・2020 年度連系線運用にかかわる平日・休日カレンダーについて」

- 運用容量、マージン、作業計画を反映したグラフを系統情報サービスに掲載しています。

[系統情報サービス](#) > その他情報 > 各種情報参照 > 各種情報(カテゴリ:作業停止計画)

情報 NO: OT201900000000「2019・2020 年度 年間作業停止計画について<連系線の運用容量等について>」